

【別紙様式3】

再評価実施事業調書

番号	2	事業名	国道道路改築事業		路線又は箇所名等		国道 356 号 銚子バイパス		
事業所管課		道路整備課		事業主体		千葉県			
事業化年度	平成元年度	用地着手年度	平成 2 年度	工事着手年度	平成 10 年度	工事終了(認可)年度	平成 25 年度	再評価の理由	⑥
費用便益比 B/C	2.1	総費用	31 億円	総便益	66 億円	基準年	平成 20 年度	供用開始 年度	平成 25 年度

【事業概要】

国道 356 号は、銚子市から我孫子市に至る総延長約 96km の一般国道であり、起点の国道 124 号と国道 126 号との交差点部から終点の国道 6 号まで、利根川に沿って北総地域北部を横断する重要な幹線道路である。

銚子バイパスは、国道 356 号の銚子市内における交通混雑緩和と沿道環境の改善等を目的として整備する延長約 8.2km (2 車線) の道路であり、全体事業費は 52 億円を見込んでいる。

現在、終点側（銚子市小船木町）から銚子市芦崎町までの区間 3.4km を供用している。

【事業の進捗状況】

	全体	未供用区間		
		区間小計	投資済	残
延長 (km)	8.2	4.8	—	—
事業費 (億円)	52.0	25.9	9.9 [38.1%]	16.0
うち用地補償費 (億円)	17.5	17.0	9.0 [52.9%]	8.0

※ [] 内は進捗率を示す

【社会経済情勢等】

- ・ 国道 356 号は、緊急輸送道路（1 次路線）に指定されている。
- ・ 銚子バイパスでは、事業効果の早期発現を図るため全体を 3 工区に分割し、順次供用を図りながら整備を進めており、これまでに 2 工区を供用している。
- ・ 用地取得にあたり、代替地の確保や共有地の交渉に時間を要しており、事業期間が長期化している。
- ・ 国道 356 号銚子バイパス計画区間における現道の状況
 - ①日交通量(H17セキス：平日)は、約 19,500 台/日、混雑度(12h)1.43 となっている。
朝夕のピーク時には、芦崎町交差点（銚子市芦崎町地先）などで、500m 程度の渋滞が発生しており、通過に 5 分程度を要している。
 - ②死傷事故は、交差点部を中心に毎年約 60 件発生しており、特に、松岸駅付近での死傷事故が多くなっている。
 - ③沿道には、小・中学校が多く、大部分が通学路に指定されているが、歩道幅員の狭い区間が多く、歩行に危険な状況となっている。
また、「バス路線」であることや、沿道にコンビニエンスストア等商業施設の立地が多いことから、バスの乗降停車や駐車場への出入り車両により、速度低下など後続車両への影響が生じている。
- ・ 全国屈指の水揚量（年間 20 万 t 以上）を誇る銚子漁港を背後に抱え、千葉県内や東京を中心として全国へ出荷しており、国道 356 号はその輸送経路として利用されている。
- ・ 銚子バイパスは、利根川河川敷の占用による用地費の縮減、利根川浚渫土の盛土材への利用及び起点側 1.8km について既存道路を活用するなど、コスト縮減を図りながら早期整備に努めている。

【対応方針（案）】

継続

銚子バイパスは、混雑度が高い現道交通のうち通過交通を分担し、物流活動の円滑化や走行の安全性向上に寄与するとともに、通学路に指定されている現道の走行性・安全性の向上も期待される道路である。

現在、段階的に供用を図っており、既供用区間においては、現道からバイパスへの交通の転換が順調に進んでいる。評価対象区間の現道部では、渋滞や交通事故の発生が多く、銚子バイパスの持つ整備効果を十分に発現させるには、評価対象区間の整備が不可欠である。

評価対象区間の用地取得率は 7 割を超えており、早期供用に向けて継続して事業を推進する。

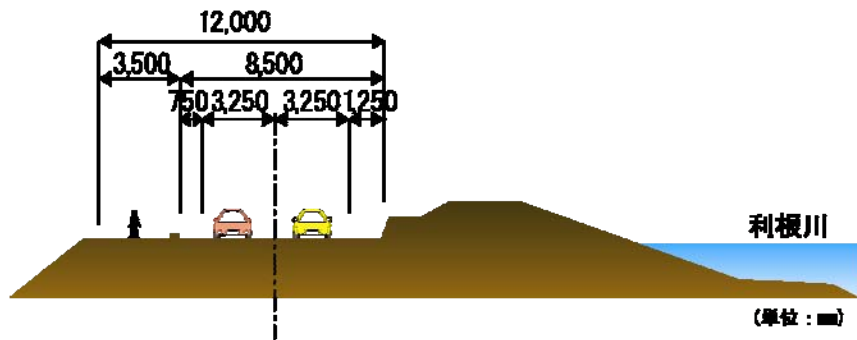
事業概要図

番号	2	事業名	国道 道路改築事業	路線又は箇所名等	国道 356 号 銚子バイパス
----	---	-----	--------------	----------	--------------------

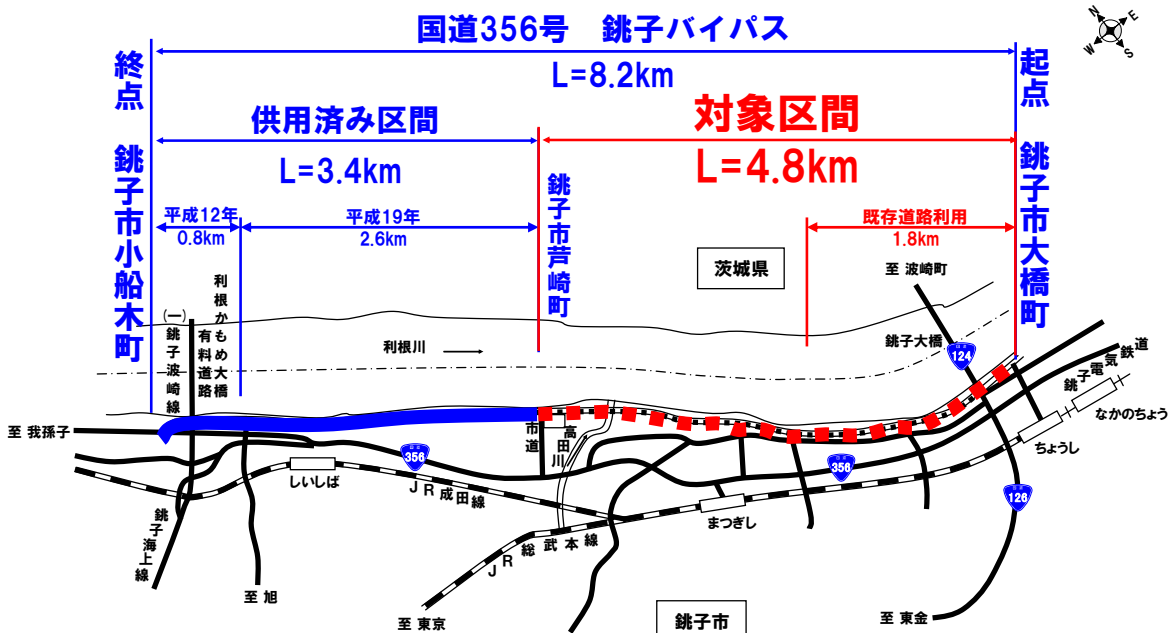
位置図



標準断面図



平面図



【別紙様式 5】

再々評価事業に関する調書

番 号	2	事 業 名	国道道路改築事業	路線又は箇所名等	国道 356 号 銚子バイパス
事業化年度	平成元年度	用地着手年度	平成 2 年度	工事着手年度	平成 10 年度
【再評価の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	平成 15 年	供用開始年度	平成 20 年度	対応方針	継続
B/C	1.7	総費用	54 億円	総便益	93 億円
再評価時の委員会の意見及び当時の状況 継続することが妥当である。					
再評価時の進捗状況及び再評価時想定 of 5 年後の進捗状況					
	計 画	進捗状況 (H15)	5 年後の想定進捗状況 (H20)		
全体事業費	52.0 億円	40.8%	100.0%		
用地取得面積	28,284 m ²	57.3%	100.0%		
供用面積 (延長)	8.2km	0.8km	3.4km		
【再々評価の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	平成 20 年	供用開始年度	平成 25 年度	対応方針	継続
B/C	2.1	総費用	31 億円	総便益	66 億円
現在の進捗状況					
	計 画	進捗状況			
全体事業費	52.0 億円	69.2%			
用地取得面積	28,284 m ²	76.1%			
供用面積 (延長)	8.2km	3.4km			
再評価後の経過及び処理状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成 15 年 再評価 (継続が妥当である) 平成 19 年 3 月 1 工区 2.56km が供用 平成 20 年度末 4.8km が未供用 【再評価時との相違点】 <ul style="list-style-type: none"> 供用区間の延伸に伴い評価対象区間が変更 (7.4km → 4.8km) 用地取得の難航から供用開始年度が遅延 				